

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

June 2020

Écoutez Bien Vol.36 No.423

6

いなげや創立120年を語る



立川深層 9

若山牧水の歌碑を知っていますか

案内人：豊泉喜一氏

立川の駅の新茶屋さくら樹の もみぢのかげに見送りし子よ

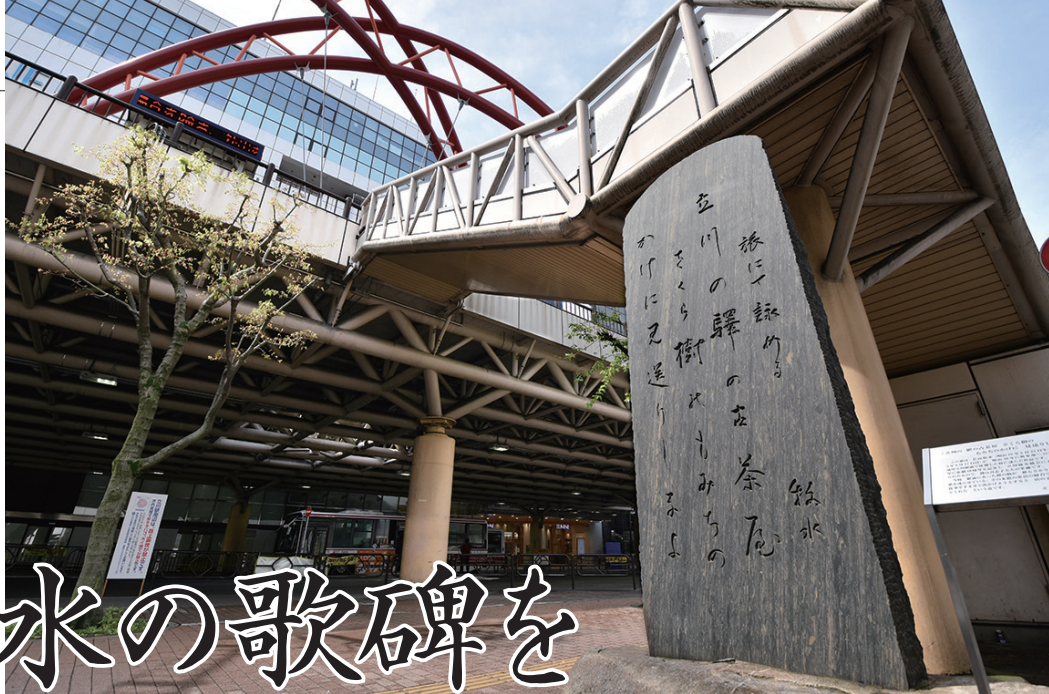
この歌を作った若山牧水といっても、現在ではあまりなじみのない名前かもしれません。昭和初期の著名な歌人であり、石川啄木とも親友で、こよなく旅と酒を愛し全国各地にたくさんの歌碑があります。

冒頭の歌は今から百年余りも前の明治39年、当時一日に何本も出ない汽車で甲武鉄道から青梅線に乗り換え奥多摩の御岳山に行く途中、待ち時間に立川駅頭で詠んだとされています。この頃は甲武鉄道が開通してまだ12年目ですが、駅周辺の茶屋と紅葉した桜の木の下で見送っている子供の情景を詠ったもので、後に馬場吉蔵が描いた立川村十二景立川駅頭の画を彷彿とさせるものです。この歌碑は戦後間もない昭和25年、立川市制十周年を記念して、立川観光協会が市内19名の有志の協力を得て建立したものです。当時は未だ戦後復興の最中であり、経済的にも厳しい状況の中で、この歌碑を建てた当時の方々の町を愛する心情に改めて敬意を表したいと思います。

当初は、今の駅前タクシープール中央付近に小島のような緑地があり、歌碑は数本の槐の木の下に建っていて、駅周辺のコンクリートジャングルの中のアオアシスといった小緑地で、夜はたくさんの小鳥たちのねぐらでもありました。

昭和54年立川駅舎の改築が始まり、それに合わせて駅前広場の整備も行われ、この小緑地と共に牧水の歌碑も移動が余儀なくされました。一時現在のタクシー乗り場の隅に歌碑だけぽつんと建っていましたが、やがて駅周辺のデッキ工事が始まり、歌詞から感じられる情緒もロマンもない、デッキの下の殺風景な現在の場所に移設されてしまい何とも残念でなりません。出来ることなら何とか歌碑に相応しい場所に移せないかと思うこと頻ります。

牧水は同じ詩歌の道を歩む太田貴志子と結婚、二男一女をもうけました。しかし、無類の酒好きで生涯旅と酒を愛し、多数の秀歌を残し昭和3年9月、43歳で早逝します。昭和23年9月から夫人の貴志子さんとご子息の旅人さんが、どのようなご縁があったのか、立川市富士見町に居を移されました。昭和25年製作の歌碑の文字は貴志子さんが書かれています。旅人さんは立川教育振興会の会員でもありました。お二人とも詩歌に優れ、多くの歌を残されていますが、立川で生涯を終えられ「詩歌の道」にその歌碑が建てられています。立川は若山牧水、貴志子、旅人と三人の歌碑があり、若山一家の歌碑があるのは立川だけではないでしょうか。



詩歌の道「若山牧水歌碑」

立川市指定有形文化財 馬場吉蔵画「立川村十二景 立川駅千本桜 明治三十五年時代」
(個人蔵、立川市歴史民俗資料館保管)

人を大切にして120年

いなげや創業家 猿渡相談役に聞く

立川にお店を開いたのは1900年。

立川とともに成長したいなげやの歴史を、「史料室」の形で繋いでいく。

——今年の5月20日に120年をお迎えになるそうですね。

猿渡 はい。立川にお店を開いたところから120年経ちました。1900年に創業者の猿渡波蔵が、今でいうと川崎の稲田堤から出てまいりまして、立川駅北口に1軒の家を借りそこで商売を始めました。

私自身は源二郎さんとはお会いしておりませんし、話を聞くチャンスもありませんでした。そこで栄一の次に社長になりました、源二郎の三男 清司からも話を聞き、それが栄一から聞いたこととはほぼ一致しましたので、会社の歴史として後世に伝えなければいけないと思い、今回史料室を作ったのです。

——どこに作られたのですか。

猿渡 栄町のいなげや本社1階です。特に若い方に観てもらって、勉強してもらい、教育の場にしたいと思っています。

——この度、社長が成瀬直人さんから本杉吉員さんに代わられました。

猿渡 はい。本杉は六代目の社長ですが、社長が交代しても創業の精神は変わりません。商売の根底は、「お客様の喜ばれるお顔が何より嬉しい」というところにあります。そのことを社員全員で共有するために、1952年、栄一は社歌を作り、社員の誓い、社

是を作り、経営理念を文章にしました。難しい文章ですが要はお客様第一、そこは絶対にブレないのです。

——猿渡さんご自身も、何年に入社されたのですか？

猿渡 1975年です。スーパーのことは何も知らず、行ったことすらありませんでした。その頃はスーパーと言えばダイエーさん、イトーヨーカドーさんくらいしか知りませんでした。

——ではそこから勉強ですか。

猿渡 一からの勉強です。いまだに忘れません、むさし村山店が私の入社第一号店でした。むさし村山店から府中美好店、横浜綱島店と配属され本部に戻り、商品部へ。そこから物流部へ行き、そしてまた店に戻ってと繰り返してきました。

——スーパーは外から見ているより遥かに大変な業界とうかがっています。

猿渡 そうかもしれませんね。でも、とても面白いです。アメリカなどはエリア、例えばここはメキシコ圏だからといったエリア特色がはっきりしていますが、日本はお店ごとに違います。

——品揃えは本部が決めるのですか？

猿渡 基本は本部が決めます。ただし、そこから外れて独自な部分はたくさんあります。それがお店ごとに特色が出てくるところなんです。この辺ではこれが絶対売れるというものがありますから。

——社会実験というか、すごいデータですね。

猿渡 「商人道」という言葉があります。お店で我々がお客様から教わるのは、商品のことだけではなく「人生」なんです。そういう意味でいなげやは、商人道=お店は我々が勉強する場である、という言葉を使っています。お客様に育てて頂く。いなげやは、単に商売をするだけではなくて、人間を育てるということを大切にしています。人を大切にするし、お客様を大切にします。美味しかったわよと言われて嬉しかった、その嬉しい気持ちを勉強させてくれるのがお店なんです、いなげやのお店はそういうことを勉強するところなんだということを理念として書いています。

——すばらしいですね。で、それが社員の皆さんに伝わっているのですか？

猿渡 ええ、そこなんです(笑)。

——そこなんです(笑)。

猿渡 教育ってそういうものではないですか。1回教えたら終わりじゃない。何回も繰り返して伝えていかなければいけない。

——はい。

猿渡 お客様も毎日変わるわけです。私も経験してきましたが、難しいからこそ面白い。クレームに対して誠実に応えていくから、クレマーだと思っていた方がいつの間にか味方になってくれている。すごい人間関係ができていくわけです。料理のことが一番勉強になりましたね。お客様に召し上がり方をうかがう。すると「私



は島根の生まれだから、色は薄いけれどしっかり塩が利いた醤油でサッと煮るのよ」とか「私は瀬戸内海出身だから魚にはうるさいわ。自分で捌くから丸のままちょうだい」とかね。そのうちお客様同士が調理方法の話を始めたりして、我々は黙って聞いていますが全てが勉強。「お客様のご提案でこんな食べ方があります」と、すぐPOPに書いてしまうんです。すると若い奥さま方は食べ方がわかってお買い上げに繋がります。

——なるほど。

猿渡 今の若い人の仕事を見ていると、自分がやってきた失敗を繰り返しているわけです。考えてみたら、自分は自分の経験を伝えてきていなかったと気づいたのです。伝える場がなかった、それならば史料室を作って昔の資料を基に、若い人に今までのいなげやの失敗も含めて大事な資料を全部見てもらおうと、そういう主旨なのです。

——では、特に若い人のための史料室でしょうか。

猿渡 それもひとつ。若い人というのは上の人を見て仕事をしていますから、まずはトップか

化し続けていくことが大事です。

——軌道に乗って守りに入るということはなかったのですか。

猿渡 ありました。何回もあります。ですから失敗だらけです。でも、1930年にT型フォードの車を購入したんです。当時家が1軒買えるくらいの値段ですよ。従業員が7人しかいないのにこんなすごい車を買ってしまった。当時陸軍第五飛行連隊に納品していましたが、それだけでなく軍属の方たちが立川に住み始め、病院もできた、軍関係の研究もできた、そうすると人口が増えるじゃないですか。その方たちに配達し、また近くの商店に卸すことを見越してトラックを買ったんです。大きなチャレンジですが、すべてはお客様に喜んでいただくための挑戦なんです。

——その創業の精神を守り抜いて今がある。

猿渡 はい。最近は皆さんよく通販とおっしゃるのですが、私は生鮮上りなものですから、やはりお客様は商品を見て買いたい、選びたいというお気持ちがあるのではないかなと思うのです。

——商品の品質とやはり人なんでしょうね。

猿渡 繁和(さわたり しげかず)氏

株式会社いなげや 相談役。1972年に結婚。1975年、妻の父親が二代目の社長(猿渡栄一氏)であった株式会社稲毛屋に入社(1984年 社名を「株式会社いなげや」に変更)。スーパーのことは全く知らないところから、売場担当を皮切りに、店長、商品部、物流部、社長室、常務取締役、監査役を経て、現在は相談役。創業120年の記念事業として史料室を創設した。



史料室のファサードに稲毛屋魚店の店頭を再現

らということですね、役員がまず見て、勉強してもらわなければならない。役員の皆さん、若い人と同じ気持ちでやりますよということでしたので、そこから出発かなと思っています。そして、繰り返し、繰り返し、史料室も1回作ったら終わりではなくて、絶えず変

猿渡 そうなんです。ですから大事なのは、商品はもちろん、そして人を育てることなのです。——ご自身の経験からもそう思われるのですね。

猿渡 私自身も失敗は今までにたくさんしています。でも、いなげやは失敗してクビにするということはないのです。失敗したら、どうして失敗したか、どうしたらうまくいくのかということ、できるようになるまでやらせます。すると、本人に技術というものが身についてきます。——なるほど。

猿渡 こうして失敗から学んだことをマニュアル化してきました。するとマニュアルによって、成功したひとつの方法が全員に教育できるわけです。いなげやのマニュアルはそういう意味のもので、やり方のテキストではありません。——そうだったんですか。

猿渡 ええ。ところが、時が経つにつれマニュアルは「やればいいや」「適当にやっておけばいい」になってしまい、教育が滞ってしまいました。——マニュアルが形骸化した。

猿渡 そうです。ですから、今回はマニュアルそのものも見直します。マニュアルにあることは最低限のことで、どう変えていかなければならないかは絶えずチャレンジしていかなければ前進はありません。

——史料室の役割が記念碑的なものではないということがよくわかりました。周年を迎える多くの企業にとっても、参考になりますね。さすが120年の歴史。立川の先陣を切っている印象です。

猿渡 私ども社内の人間だけでなく、将来は近隣の学校の児童や生徒さんたちにも、また一般の方々にも見て頂こうかなと思っております。そこでまたご感想を頂くことによって、より良いいなげやに成長していけるのではないかと考えています。

——楽しみです。ぜひ拝見させてください。

(取材日:2020年1月28日)



立川飛行場だった場所

変わろうとして変わってきた街

1977年11月30日。接収されていた土地の全面返還。

「最後の一等地」といわれる土地に、
新しい顔〈GREEN SPRINGS〉ができるまでを追ってみる。

それまではただただ広がる畑と原野。街道もない。宿場もない。田舎の農村 立川に甲武鉄道が通ったのは1889(明治22)年。立川駅に北口ができ、あちこちから停車場(立川駅)へと人が移住してきた。鉄道があることが大きな理由のひとつとなって、飛行場がやってくる。1922(大正11)年8月に飛行場は完成、11月には岐阜県各務原から飛行第五大隊が移駐してきた。関連する産業は雇用を生み、静かな農村立川はにわかに「空の都」となり、「軍都」となった。

戦争に負けると、飛行場は米軍の基地となる。前号より連載が始まった「オレの立川ノスタルジー」はまさにこの時期の話。「負」のイメージが強いが、意外にも明るく楽しい時代だった。けれども立川はここに留まらない。返還後の土地利用について紛糾すること10年。1977(昭和52)年11月30日に米軍立川基地は日本政府に全面返還され、1979(昭和54)年、国有財産中央審議会が「立川飛行場返還国有地の処理について」を決定。これにより現在の姿の原型ができた。

陸上自衛隊立川駐屯地、国営昭和記念公園、広域防災基地、1982(昭和57)年、立川駅に最も近い基地跡地に新しい街ファーレが誕生する。国立の研究機関や裁判所、拘置所も移転してきた。商業施設としてIKEA誕生。そして最後まで残っていた3.9ha。それがこの度生まれた立川の新しい顔〈GREEN SPRINGS〉。

人が街を育てるのか、街が人を変えていくのか。さて、これから立川はどう進んでいくのだろう。



南側に中央線、北側に玉川上水 その間にある四角い空き地が今回開発された土地



陸軍飛行第五連隊 中央に見えるのが大格納庫



米軍基地時代 写真中央に縦に4つ連なる大格納庫 今はここにモノレールが通っている 左は飛行場 南側に練川通り



立川飛行場の空撮写真 中央の四角く区切られたところにIKEAとGREEN SPRINGSができた



まだIKEAができる前 2008年に撮影
モノレールが走っているところに大格納庫があった



ヤギがいてみどり地区と呼ばれていたころの街区



ヤギがいなくなった街区で流鏑馬も実施



GREEN SPRINGSの北側にあるホール前から南に向かって撮影
ヤギがいたころを彷彿とさせるグリーン



TACHIKAWA STAGE GARDEN の屋上も空に繋がるイメージ
北の方に見えているのは応現院とメットライフドーム



空と大地がつながるイメージのGREEN SPRINGSが誕生



モノレール建設中 現在サンサンロードになっているところは車道
だった ファーレアートがレイアウトされている (撮影: 武田和紀氏)



えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 錦町・柴崎町・立川市外 のお店です。	
錦町	CAFE SOMMEILLER527-1440 中国整体院 529-1088 日本クッキングスクール.....522-3440 元祖5本指ソックス専門店 LASANTE 540-1616 ホテル日航立川 東京521-1111 美容室 アリス 525-1100 FALCO hair 528-2389 N HAIR WORLD 523-5336 創作料理 caffe & bar 厨〜 kuriya ~ 595-7449 TTM (株) 524-5787 Bakery Café Crown526-2226 日本空手道 佐藤塾 548-7460 三田花店本店 524-4187 いわさき痛みの整骨院 529-5123 にしや薬局 525-9212 たましん RISURU ホール 526-1311 たましん 錦町支店 528-0511 豆やキッチン pocotto 808-7507 カレー店 CHOTA525-1004 パン工房 グラティア 512-8667 そば処 高尾亭 522-2710 Natural Food Restaurant シェいなば 529-5921 Garden & Crafts café 0120-412-877 至誠学舎立川 527-7734 至誠ホーム 527-0031 至誠介護相談センター 527-0321
柴崎町	諏訪神社 522-2968 毎日新聞社グループ (株) 毎日広告社 522-6121 パスタビーノ はしや 521-3386 高島ビル 526-0111 Hair Room MOON ZETTON 523-0961 南武堂剣道具店 527-0197 ビジネスホテル 小沢屋 523-0388 おしゃべりカフェトーク・スペース 527-1636 ESBI 立川南口店 526-2947 (株) 一心堂 527-3777 すがの歯科 540-2675 紙匠 雅 548-1388 あすなろクリニック 529-2756 ビストロこづ 525-9929 入船茶屋 524-6266 チーズフォンデュと欧風料理 クワトロ 528-2983 串揚割烹 トントン 524-4521 不動産 コマツホーム.....525-5811 芹沢ガラス店 522-3065 かみゆい処 わ 522-8202 ファッションハウス ホマレヤ 525-2788 ホテル ほまれ 523-0588 ヘアサロン オオヌキ 528-0809 中国四川料理 山城 512-8356 酒歩 たから 528-1510 純中国料理 北京大飯店 522-6393 リサイクル着物 着楽堂 523-9702 天婦羅・うなぎ 良銀 522-6702 ギャラリー きらら 522-3913 生活雑貨 EAST END 523-9636 特むし銘茶・海苔 菊川園 526-2035
立川市外	昭島市 ECO'S 昭島店 546-3710 武蔵村山市 中国料理 菜 561-7233 国分寺市 パンの店 fermata 534-3334

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我浄〉

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄はスマートフォンアプリ「ivy」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

緊急事態宣言の中で

4月7日（火）、安倍晋三首相が新型コロナウイルス対応の特別措置法に基づく緊急事態宣言を出しました。期間はコロナ終息の兆しが見えるまででしょうか。4月8日（水）、いつもとは違う立川がそこにありました。当たり前が当たり前でないことを実感します。



南口のすずらん通り
車もなく人もまばら



昨年のすずらん通り 立川フラメンコで大賑わい これが例年の姿



閉門されている国営昭和記念公園曙口
花だけが美しく咲いていました



映画館も休館です



大型店では食料品売り場だけ開けているところと全館閉館しているところとが混在。この後、社会生活を維持する上で必要な施設として感染防止対策の協力要請へと対応が変わりました。

静かに静かにオープンしました

4月10日（金）晴天の下、立川駅北口にGREEN SPRINGSが開業しました。この日に合わせいくつかのイベントが企画されていましたが、すべて中止したり延期したり。新型コロナウイルス感染症による外出自粛要請を受けて、グランドオープンはせず、数店舗のみの静かな幕開けとなりました。春風が気持ちよく吹く街区中庭に、ポツポツ見える人影。感染症終息の暁には、きっと大勢のお客様にぎわうことでしょう。



4月10日の風景



3月26日 GREEN SPRINGSの開所式（ステージガーデンで）



街区南にある建物内に世界にこの1機しかない復元飛行機R-HMがあります

TACHIKAWA STAGE GARDEN に優マーク

4月2日（木）、立川消防署ではTACHIKAWA STAGE GARDENを優良防火対象物として認定し、安心・安全な建物であることを示す優マークを交付しました。優良防火対象物認定表示制度（通称：優マーク制度）は平成18年10月1日から始まったもので、建物の管理権原者からの申請に基づいて消防署長が審査・検査し、その結果防火上優良な建物であると認定した場合に優良防火対象物認定証を表示することができる制度です。TACHIKAWA STAGE GARDENは2階席後方を開放し、屋内ステージと屋外を一体利用できる新しいホール。エントランス天井には多摩産材が張られ、緑豊かな街区と調和し優しい光が満ちています。



優マーク交付式（鈴木立川消防署長（右）と一般財団法人 立飛教育文化振興会 藤田敏明理事長）



4月2日午後に行われたロビーピアノのサウンドチェック。音楽演出家でヴァイオリニストの大道淳英さんとチェリストの堀内美貴子さん、ピアニストの南雲彩さんが演奏していました。36 年間でこのようなことは初めてです。今までは「駅ピアノ」「空港ピアノ」に並ぶ「ロビーピアノ」を今後展開する予定です。

今年最大のスーパームーン & 雪の連山



4月8日（水）の月はスーパームーンでした。3月29日に降った雪の影響で、桜の開花が一度止まったそうです。改めて暖かい陽気に今まで蕾だった花が開花。8日の満月をより美しく飾っていました。この日の月は今年最大だったそうです。月と桜、もちろん別撮りですが、同じ時間に撮ったものです。

雪の富士山と連なる山々は、4月14日（火）に撮影。前日の大雨が山沿いでは雪になったよう。桜と月と雪。美しい自然は何かあっても変わりません。



表紙

矢川緑地保全地域（羽衣町）

立川市の東南、国立と接する場所にある湿地、通称「矢川緑地」です。立川段丘崖を水源にした小川が流れ、湧水と湿地が多く、貴重な自然を育んでいます。撮影は自粛の続く4月14日。前日の大雨に湿地はすっかり池のよう。水面に初夏を待つ緑と青空が映っています。アオサギが1羽、湿地の畔に飛んできて水の中を覗いていました。カモのつがい、水面を揺らすこともなく、背中に頭を突っ込んで寝ています。木々の上の方では野鳥の声。矢川のきれいなせせらぎと澄んだ空気に、ひと時コロナを忘れていました。

かたこと

◆新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、医療従事者を始め感染症の危険にさらされながらも市民生活維持のため従事される皆様に、感謝しそのご健康を祈ります◆感染症は勢い止まず経済生活に苦痛をもたらし、困難を伴う暮らしが続いています。こうした中に、今号もえくてびあんをご覧いただきありがとうございます。えくてびあんでは、女性2人で市内約300 か所に冊子を配布しております。彼女たちがうかがうと、にこやかに応対してくださるお店や機関ばかり。4月に入ると休業要請により、その笑顔に会えずえくてびあんを持ち帰ることも多々ありました。36 年間でこのようなことは初めてです。今までずっとえくてびあんを置いてくださっていた配布先の皆さまに改めて感謝せずにはいられません◆子どもは公園の遊具を使えない。病院では初診の患者は診てもらえない。一度コロナにかかると隔離されひとりで闘わなければならない。家族が重症化すると、二度と会えなくなるかもしれない。不安や恐怖と隣合わせの毎日です。コロナ前と同じ状態に戻そうと思うと一層辛くなるかもしれません◆この状況にいかに対応するか。商店街ごとにマップを作り、飲食店はテイクアウトへ、デリバリーへと分野を広げ、我が「多摩てばこネット」を始め応援サイトも数々生まれ、それをまとめるサイトもでき、飲食店と消費者が心ひとつに立川のお店を守ろうとする姿が今はあります。◆つながりは、個人我を捨てさせ、持てる力を他のために結集、いくつもの不可能を可能にします。コロナの後にやってくるもの…それは以前より強い立川かもしれません。えくてびあんもその中に入れていただけるようがんばります。でも皆様、くれぐれも健康には留意しお元気で。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑨

6月号 第36巻 通巻423号

令和2年6月1日発行
 発行 有限会社えくてびあん
 〒190-0023
 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
 TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
 E-mail message@tamatebakonet.jp
 URL https://www.tamatebakonet.jp
 発行人 黒須 環
 企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
 デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
 印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

'53 ビュイック ロードマスター リビエラセダン



[立川の風景 昭和色アルバム その6] 159 ページ (写真：高木紀男氏)

1964年1月5日に撮影された写真。外人ハウスの多い富士見町。背景にあるのは立川神の教会。併設するめぐみ幼稚園にオレは通っていた。屋根裏というものがあって、悪いことをした友だちがそこに引っ張っていかれる度、恐怖を感じた。何をしたのか覚えていないが、1度だけ屋根裏に閉じ込められた。今だったらとんでもない話だが、年中の時の担任は本当に怖い先生だった。今でも名前をはっきり覚えている。基地が近い幼稚園だからか、金髪だか銀髪だか、そんな髪色のおばあちゃんがフレームの両サイドがつり上がったメガネをかけて、英語を教えに来ていた。毎週1回、同じことしかしなかった。リンゴの絵を見せて「アップル、アップル」と言い、それに倣って子どもたちが同じ言葉を繰り返す。パンに肉を挟んだ絵が出てきて、それを「ヘンブク、ヘンブク」と言うわけだ。子どもながらに、これは「ヘンブク」というもののだと理解した。ある程度の年齢になってから、あれは「ハンバーガー」だったのだと気づいた。立川伊勢丹1階にマクドナルドが開店するまで実際に食べたことがなく、アニメの「ポパイ」のキャラクターであるウインピーが食べているハンバーガーしか知らなかったのだから、オレにとってあれは「ヘンブク」でしかない。「アップル」と「ヘンブク」と、他にもいくつか絵はあったが、「ヘンブク」の印象があまりにも強すぎて、それ以外を覚えていない。

クリスマスになるとキリスト生誕の劇をした。オレは宿屋の主の役だった。マリア様やヨゼフ様が1人なのに、宿屋の主は3人もいる。何か納得のいかないものを感じていた。その後「たろうちゃんのバケツ」という劇をやった。その時は、なんとオレが主役だった。たろうちゃんの役なわけだ。ラッキーと思ったのだが、オレが主役の時は、たろうちゃんが3人いた。